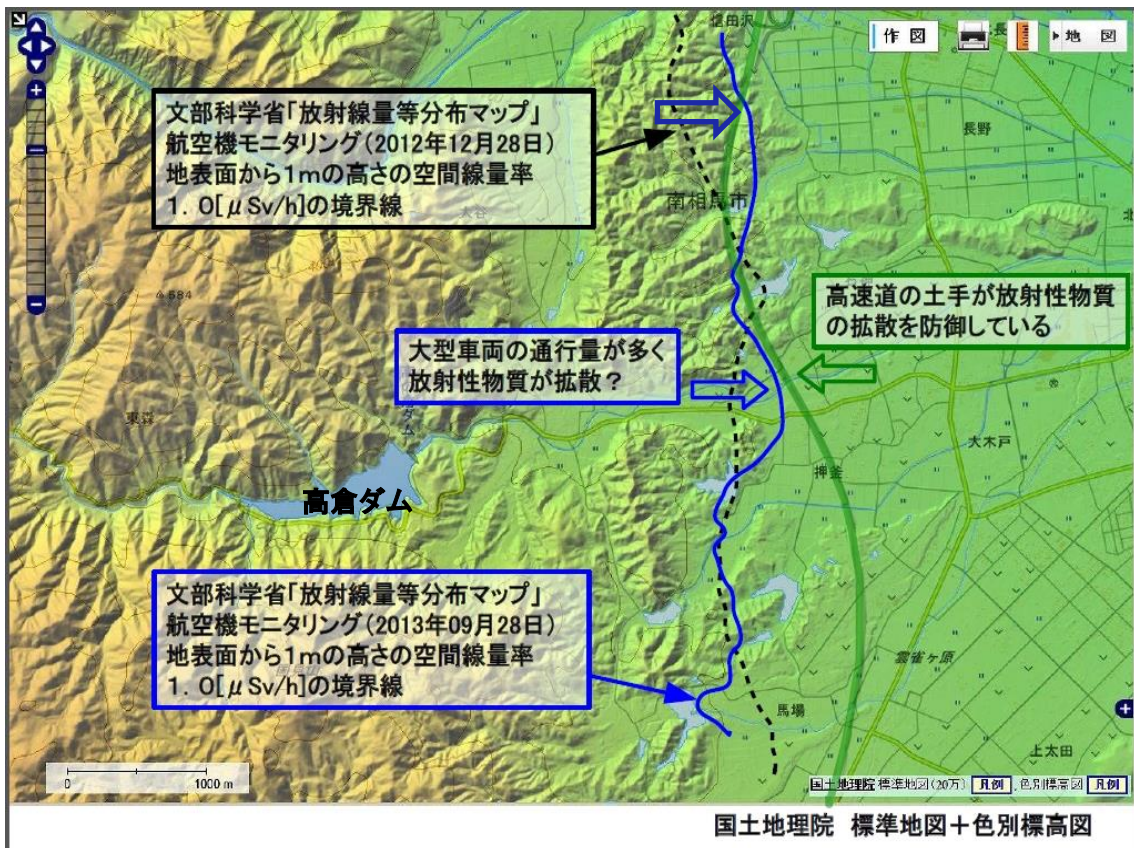
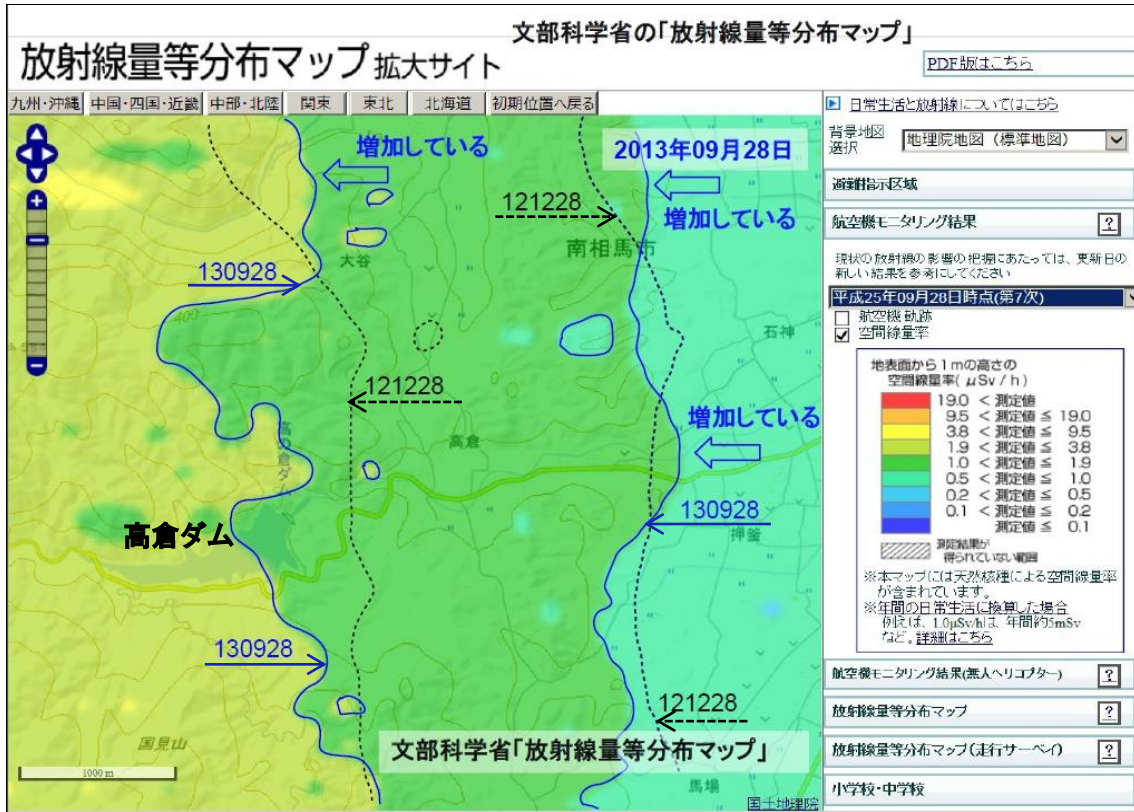
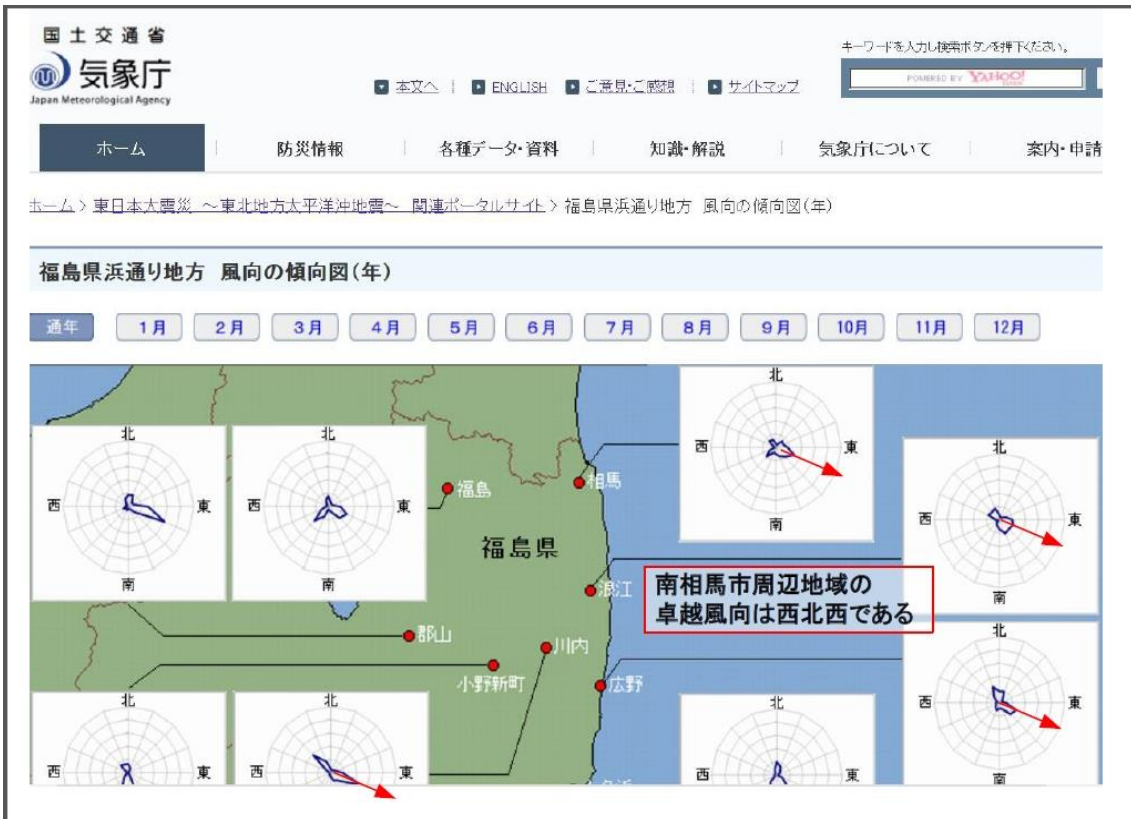


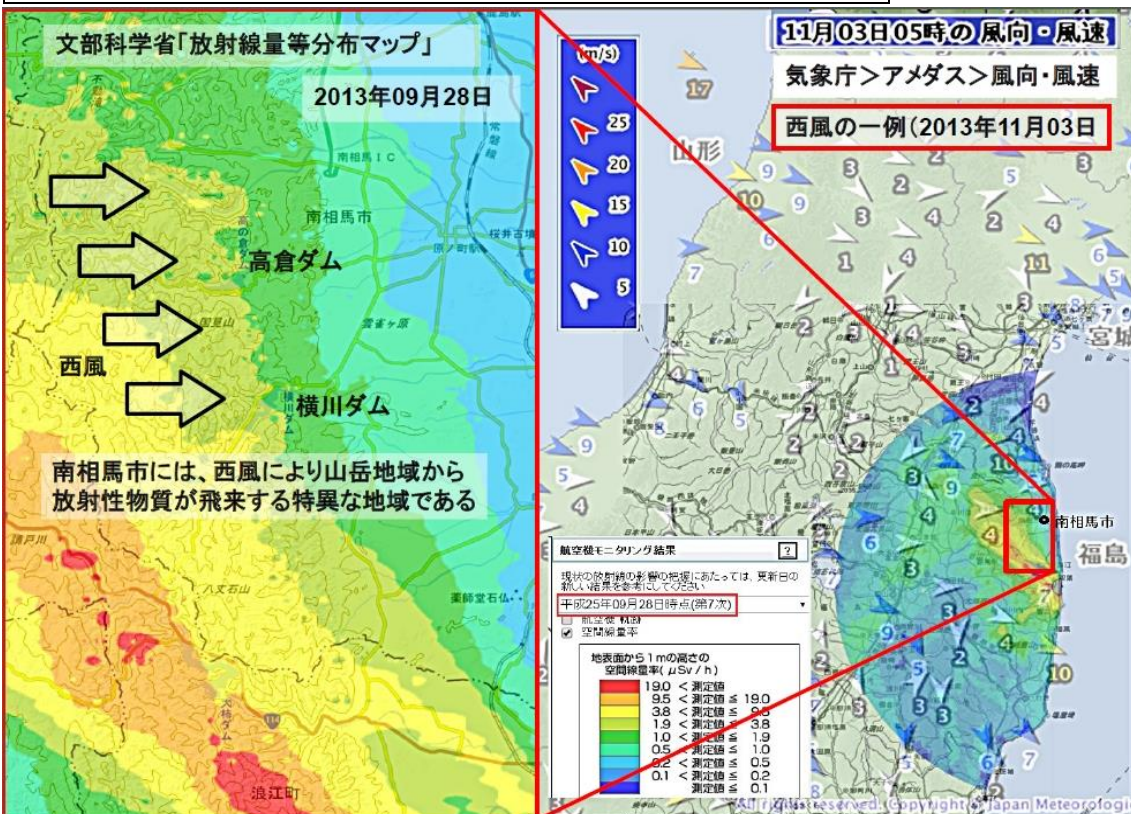
F. 放射能は大型車両のタイヤなどで舞い上がり、土手で止まる



## G. 偏西風による拡散影響の検証と注意喚起情報発令が必要



## H. 山(飯館村側)からの侵攻は永遠に続くが対策はあるのか？



# I. なぜ、チェルノブイリ原発事故のような対応をできないのか

【参考：ICRP Publication 111より】

表 A.1 1991年にベラルーシで採用された区域設定の判断基準\*

区域設定の判断基準	公式の区域名称
$37 < {}^{137}\text{Cs} < 185 \text{ kBq/m}^2$ $5.55 < {}^{90}\text{Sr} < 18.5 \text{ kBq/m}^2$ $0.37 < {}^{\dagger}\text{Pu} < 0.74 \text{ kBq/m}^2$ 個人線量 $< 1 \text{ mSv/年}$	定期的な放射線モニタリング
$185 < {}^{137}\text{Cs} < 555 \text{ kBq/m}^2$ $18.5 < {}^{90}\text{Sr} < 74 \text{ kBq/m}^2$ $0.74 < {}^{\dagger}\text{Pu} < 1.85 \text{ kBq/m}^2$ $1 < \text{個人線量} < 5 \text{ mSv/年}$	移住の権利を持つ区域
$555 < {}^{137}\text{Cs} < 1480 \text{ kBq/m}^2$ $74 < {}^{90}\text{Sr} < 111 \text{ kBq/m}^2$ $1.85 < {}^{\dagger}\text{Pu} < 3.7 \text{ kBq/m}^2$ 個人線量 $> 5 \text{ mSv/年}$	二次的移住区域
${}^{137}\text{Cs} > 1480 \text{ kBq/m}^2$ ${}^{90}\text{Sr} > 111 \text{ kBq/m}^2$ ${}^{\dagger}\text{Pu} > 3.7 \text{ kBq/m}^2$ 個人線量 $> 5 \text{ mSv/年}$	優先的移住区域
[チェルノブイリ原発周辺領域] 1986年に住民は避難	避難区域（立入禁止区域）

\* ベラルーシ国立土壌農芸化学研究所（BRISSA）提供の資料により修正（訳者）。  
 † Puは ${}^{238}\text{Pu}$ 、 ${}^{239}\text{Pu}$ 、 ${}^{240}\text{Pu}$ の総量。

ICRP Publication 111

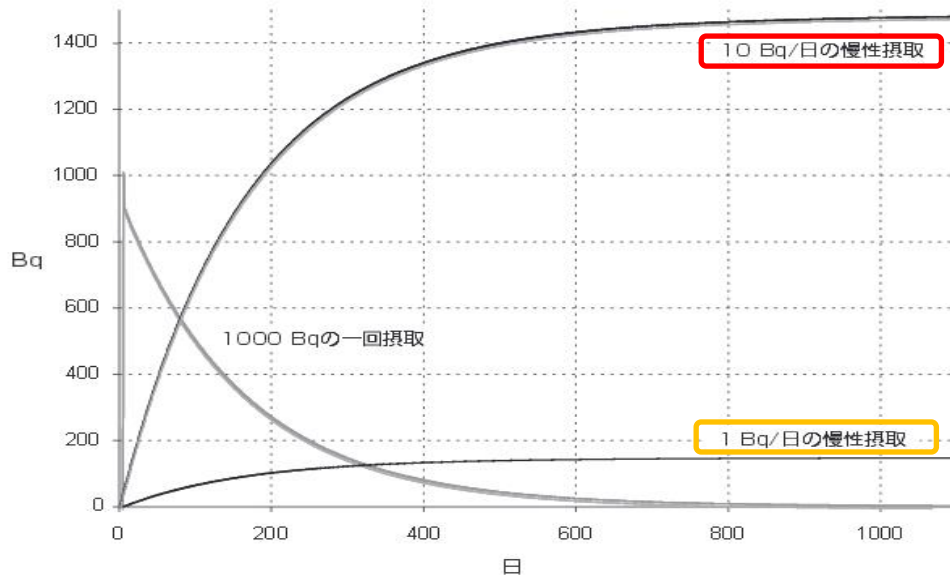


図 2.2 1000 Bqの ${}^{137}\text{Cs}$ を一度に摂取した場合、毎日1 Bqまたは10 Bqの ${}^{137}\text{Cs}$ を摂取した場合の、全身放射能（Bq）の複数年（1000日）にわたる変化

ICRP Publication 111